

実施日： 6月22日（4校時）・2月7日（3校時）	
領 域： 特別の教科 道徳	
取組名： 学級の仲間の考えていることを知ろう（資料「あったらいいなこんな学級」（自作資料））	
対 象： 4年生・3年生	実施場所： 4年教室・3年教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級に対して考えていることを伝え合う活動を通して、仲間のことを知ろうとする。 ・ 学級全体で目標を立てさせ、学級をより良くしていこうとする態度を育てる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 【児童・学級の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生や友だちの話を集中して聞くことが苦手な児童が多い。 ・ 自尊感情が低く、できないことがあるとすねてしまう児童が複数いる。 ・ 相手の立場や気持ちを推し量ることが苦手な児童が多い。 【第1次 資料「あったらいいなこんな学級」の学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の約束を確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ①話の聞き方（・体を止める ・話す人を見る ・最後まで聞く） ②話している人の声に自分の声を重ねない。 ・ 「いやだなと思う学級」について考え発表させる。 自分たちの学級で起きていること、自分ごととして捉えられるように促す。 ・ 「あったらいいなこんな学級」について考え、発表させる。 どうすれば「あったらいいなこんな学級」になるか話し合わせ、学級全体の目標を考えさせる。 ・ ふり返りをさせ、次時への見通しをもたせる。（学級活動「〇〇を合わせる」へつなげる） 	
ウ 連携先： 校内研修、家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者理解につながる「話の聞き方」を校内研修の重点目標に位置付ける。 ・ 集会活動等で「話の聞き方」を確認する。 ・ 普段の学校生活や遊びの中で、子どもたちの言葉づかいに気を配る。学校だより、学級通信等で子どもたちの言葉づかいについて呼びかける。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回、「授業アンケート」（児童用・先生用）を実施し、他者理解につながる「話の聞き方」について点検・評価をする。 ・ 月に1・2回程度、「児童理解の会」を開催し、言葉づかいや「話の聞き方」を含めた学級の様子について点検・評価を行う。 ・ 縦割り活動や集会活動等で異学年交流を行う。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート、アンケート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集会活動や教科の学習で、他者理解につながる「話の聞き方」の素地が定着しつつある。先生や友だちの話をうなずきながら聞いたり、肯定的に反応したりする子どもたちが増えた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では「話の聞き方」や言葉づかいが意識できているが、遊びの中や縦割り活動の場面で、相手の立場や気持ちを推し量ることができず、友だちを傷つけてしまう児童がまだ多い。 	